

東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第3学年 国語科学習指導案	授業者	渡邊 裕
	授業学級	3年D組 (男子18名, 女子17名)
授業テーマ	ことばを見つめる～〈情報〉の収斂性と「タイトル」の機能～	

1. 本時の目標

○発信者と受信者によるタイトルについての〈情報〉量の差に着目し、タイトルについて機能という観点から捉え直す。

○〈情報〉の周縁にある要素に目を向けその結びつきから見えてくる対象の姿について考える。

○情報の伝達性を踏まえ、発信者／受信者それぞれの視点を明確にして、その差異を把握する。

2. 本時の位置づけ

学習指導要領では、第3学年〔知識及び技能〕(2)において「ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。」とある。この中でまず注目したいのは、「情報と情報との関係」という点である。

情報同士の関係性を整理することや、発信に適した手段を考えていくには、個々の情報がどのようなものであるか、「正確に」把握しておくことが必要になる。〈情報〉という観点でみると、一つの事柄について多くの面が現れるからこそ、あるものを入り口に、関連する要素と既有知識や経験的な蓄積との結びつきが活用される。また〈情報〉同士の結びつきから、ある「意味」が「作られる」ことにも意識を向ける必要がある。単に想像を膨らませ以上の特徴がそこには存在し、この視点に立つことで、〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと (1) ア「目的や場面に応じて、社会生活から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること」等の取り組みによる具体化や、その結びつきからの深化を図ることができるのではないかと。

3. 本時の概要

(1) 「タイトル」と〈情報〉

本時では読書活動や他教科連携を踏まえながら「タイトル」に注目し、その機能を発信者

と受信者の視点を取り入れながら捉え直していく。そのうえで、ことばを入り口にある括りの中で「多様な考え」の形成に関連する要素や文脈についても考える。ある事柄をとらえていく上で〈情報〉の結びつきとそれが「名付け」られることの効果、「知る」ことにより「見えてくるもの」、制約についても考えていきたい。

(2) 情報活用能力との関連

-1 情報活用能力をどうとらえるか

〈情報〉という捉え方をしていくことで、対象を一つのカテゴリーにのみ括られた知識とするのではなくのではなく、その対象が作りだされる過程で包含される種々の事柄も学びの対象となる。情報活用能力については、それらをいかに把握し、また目的に応じた形で表現していくかということにつながるものであると考える。また、それらを理解し使うためには、方法の特性と情報の特性を結びつけることが必要であり、そこでは抽象度をあげた理解が求められる。例えば教材を「要素・観点」ということから考えることで事柄の結びつきを抽象化/具体化して捉えることもできるだろう。軸となるものを定めることで、学習内容や経験を活用し、汎用・横断に結びついていくのではないかと。

-2 体系表に照らしてみると

本単元の取り組みを体系表に照らすと、特に次の項目との結びつきが見えてくる。

○A: 知識及び技能-2: 問題解決・探究における情報活用能力の理解-①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解

○B: 思考力、判断力、表現力等-1: 問題解決・探究における情報を活用する力-②新たな意味や価値を創造する力

○C: 学びに向かう力、人間性等-問題解決・探究における情報を活用する態度-①多角的に情報を検討しようとする態度

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉これまでの学習の結びつきと単元の課題の共有 (10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> タイトルはどのような機能を持つのか </div> <p>◇読書課題テーマ「食と健康」をもとに考える。 ◇選書の場合を具体として、どのような役割を果たすのか考える ◇自分の考えとして示した特徴が、どの立場によるものであるのか検討する。(●「内容をわかりやすく示す」) ◇送り手と受け手、それぞれタイトルに対する見え方の違い(〈情報〉量の差)についてイメージする。</p>	<p>◆読書課題として取り組んだ「食と健康」の取り組みをもとに考える。 ◆内容を把握する入り口となっている「タイトル」の働きにまず注目し、そのうえで既知の〈情報〉の差によって「見えてくるもの」の違いへの着目を促す。→本単元のまとめとして、タイトルに現れる送り手側の〈情報〉の扱いを端的に示す語を検討することを確認する。 ◆内容を把握した上で見直すと、変化する「タイトル」の姿はなかったか、互いに共有する。</p>
<p>〈2. 展開〉(1) 関連する要素の顕在化 ※語の持つ「文脈」 (15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「食」と「健康」がどのように接続されているのか、対象の有する要素をもとに考える </div> <p>◇〈情報〉同士の結びつきがどのように生まれるのか、その観点はどうなものか考える。 ◇「書かれていない部分」を想像するための入り口と話題が置かれる「流れ」(文脈)の関係を捉える。</p>	<p>◆対象を形作るものが、複数の要素の結びつきからなることを共有する。 ◆要素同士を結びつけるとき、そこにある「空白」を埋めるために、ある「文脈」に落とし込んでいくことに気づかせる。 ◆これまでの取り組みで着目してきた事柄(類推、置換、比較等の思考過程や意味について、「 」の働きなど)について、相互交流や机間巡視・指導をもとに意識を向けるように促す。</p>
<p>〈2. 展開〉(2) 〈情報〉の見え方の変化 (15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 対照的な考えを示す書籍を検討し、相違点とともに共通性を捉える。 </div> <p>●同じ要素について肯定/否定の立場をとっている →◇関連する項目のうち特定の要素に焦点化されているのか、俯瞰的に捉えられているのか考える(〈情報〉の扱い方)</p>	<p>◆「物語」「真実」という視点をもとに、差異だけでなく、共通性を検討する。 →家庭科で取り組んでいる論証モデルのうち、「相対する」として捉えたものを見直してみる。 ◆「見える」状態になったもの、それにより「見えなくなっている」もの(背景化したもの)に気づき、その意味を考えていくことを促す。</p>
<p>〈3. まとめ〉「タイトル」から見えてくるものは。 (10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「名付け」られることや「知る」ことによる対象の見え方の変化をもとに、活用可能性を検討する。 </div> <p>◇「タイトル」に「収斂」される〈情報〉を活用していくとき、書かれているものだけでなく、書かれていない部分を「想像する」ことも大切な要素になる。</p>	<p>◆家庭科「コチニール色素」の例をもとに、「知る」ことによる対象の見え方の変化について共有する。 ◆「空白」を埋めるとき、外的な「文脈」(日常経験や言語経験、文化的記憶等)を導入し、活用していることを共有する。 ◆ブックリスト等から選択した「相対するもの」について、自分がなぜそれが選択できたのかを再度問い直す。そこから「見えているものの差」について考えてみることを促す。</p>